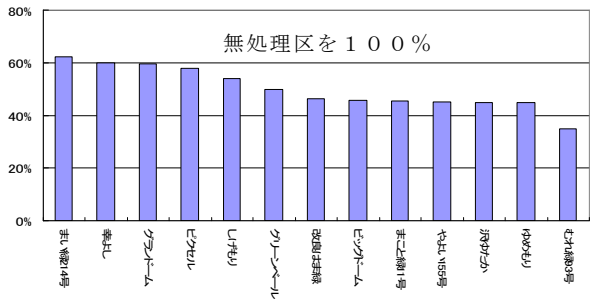
ブロッコリーの降雨被害軽減対策の確立

ブロッコリー産地では、天候不順に伴う長雨、台風による集中豪雨等により甚大な被害を受けることがしばしばありました。そこで、降雨被害を軽減するための技術を組み立てるとともに、現地実証をしました。
耐湿性について品種比較し、「まい緑214号」、「幸よし」、「グランドーム」、「ピクセル」、「しげもり」、「グリーンベール」の６品種を選定しました。
耕種的対策としては、高さ20cm以上の高うねにすることが有効なことを明らかにしました。さらに、通気型白黒マルチを組み合わせた高うねマルチ栽培は、湿害と乾燥害回避効果が高く、安定した収量・品質が確保できました。

１　耐湿性品種の選定



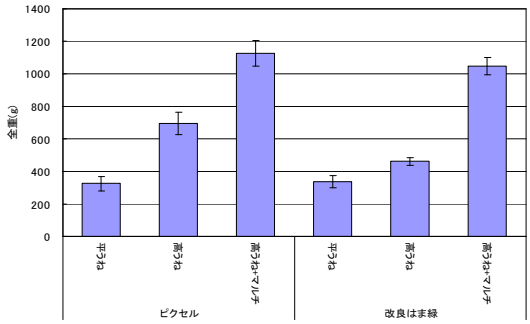
耐湿品種比較結果

鉢育苗した本葉2.5～3.5葉の苗を、8月3～8日にかけて、鉢全体を水中に浸漬し、その後、浸漬した株と浸漬しなかった株の重量を比較しました。
浸漬処理による株重の減少は、「まい緑２１４号」「幸よし」「グランドーム」「ピクセル」「しげもり」「グリンベール」の順に少なかったです。（左図参照）

２　湿害回避技術組み立て

生育中期の9月25～30日にかけて、１日当たり30mmの潅水を６回行い、収穫時の株重を比較しました。

(1) 高さ20cm以上の高うねが、湿害回避に有効でした。
(2) 高うね時乾燥による生育遅延は、マルチにより回避できました。
(3) 高うねでマルチを使う場合は、２条を１ベッドにすると、マルチの展張がしやすくなります。



対策別湿害軽減効果

３　現地実証（水田）に基づく高うねマルチ栽培の留意点

実証圃は、定植３日後の未明、台風によりマルチの上まで冠水ました。（写真は、ポンプ排水開始約１時間後）

(1) 最も良かったマルチは、通気性のある白黒マルチでした。細かな穴を通して空気の出入りがあり、地温の上昇が少なく、うね内水分の減少が早い傾向でした。
(2) 定植時、ベッド内水分が少ない場合、地温が上昇すると活着が著しく悪くなるので、定植後直ちに潅水する必要があります。
(3) 排水対策は、幹線排水に通じる排水路をほ場内に設けるとともに、耕盤を破砕をする等排水対策を徹底し、ほ場に滞水しないようにする必要があります。

台風通過後の実証圃

（園芸研究所　野菜・花担当　TEL 0480-21-1113）